



植物の成長には赤と青の光が必要
(LEDを使った植物工場)

植物工場

LEDで効率栽培

昭和電工はシステム・インスツルメンツ(東京都八王子市、濱田和幸社長、042・646・3555)と共同で、発光ダイオード(LED)を使い効率的に植物を育てられるよう、赤・緑・青の光の構成を簡単に測定できる光量子計を開発した。測定結果に応じて光を最適化することで、消費電力を削減し、収穫量を増やせる。LEDを使った植物工場の普及を後押しし、自社の植物工場関連製品の販売拡大にもつなげる。

昭和電工など

やすく、「LEDを使う不安感を解消できる」(昭和電工)という。独自に開発した赤・青・緑の光だけを通す特殊な干渉フィルターを使うことで、手帳サイズの小型装置で赤・緑・青の光の分離に成功した。測定方法は光源の下にセンサーユニットをかざすだけで

簡単にできる。測定結果に応じて赤や青の光の量を調節し、生育に最適な光にする。価格は1台38万円、2月下旬に発売する。す

赤・緑・青の光の構成を簡単に測定できる光量子計

光の総量を測定するタイプだった。後藤英司千葉大学教授の協力で、新製品で測定した赤・緑・青の合計値は普及型の光量子計の測定値と同等と確認した。

植物工場の利用は東日本大震災の被災地でも検討されている。普及と同時に効率的な運営方法の確立が求められており、光の測定装置は一助となりそうだ。



光の構成 電力抑え収穫増やす 簡単測定 電力抑え収穫増やす